

まちの達人から



まちをよくするための活動ってどんなコト？  
まちをよく見てみると、「私たちの住んでいるまち」のために、  
さまざまな人が活躍しています。  
東区を愛する魅力的な「まちの達人」を紹介します。



自転車にツーロック、  
玄関・窓にも  
ツーロック  
原田 勝弘さん

生まれも育ちも矢田学区の原田勝弘さん(73)は、平成8年から学区の防犯委員として活躍。平成25年からは青色回転灯を付けた車両を導入し、パトロール(通称「青パト」)を実施し、東区約28%の面積を占める矢田学区を17人の青パト隊員が交代でくまなく回っています。毎週月曜日の午後6時からパトロールを開始。犯罪の発生しやすい場所を点検したり、部活帰りの中学生を見守ったりと、普段の優しい表情とは一変、厳しい表情で犯罪抑止のため目を光らせます。「自分たちのまちは自分たちで守る、が私たちのモットー」と語る原田さん。「防犯活動は適度な緊張感を保てる」と話し、「やることも多いけど、定年後のいわゆる『濡れ落ち葉』にならないからいい」と家族も応援しています。区民の皆さんへは「泥棒は時間がかかるのを嫌がります。自転車にはツーロック、玄関・窓にもツーロック」と、大切な家族の命や財産を守るために、日頃から防犯に対する意識を持つよう訴えます。



まずは自分の命を守ること  
瀬野尾 衛さん

昭和62年に東桜消防団員に任命され消防団活動の第一線で活躍し、平成20年からは消防団長として、地域の安心・安全に尽力してきた瀬野尾衛さん(62)。普段は、居酒屋「さのや」の店



星野さん

原田さん

主として自慢の串カツを提供していますが、いざ管轄区域内で火災が発生したと消防署から連絡があると、昼夜を問わずいち早く現場に駆け付け、消防団活動に従事しています。

消防団員は、他に本業を持ちながらも「自らの地域は自ら守る」という郷土愛護の精神に基づき、消防・防災活動を行っています。東日本大震災をはじめ、地震や風水害等の大規模災害時には、全国各地で消火活動や避難支援などの活動を行い大きな成果を上げており、地域住民からも大きな期待が寄せられています。

近年、南海トラフ地震などの大規模地震の発生が懸念されているなか、「大規模地震は必ず来る。まずは自分の命は自分で守れるよう、家具の転倒防止対策をしてほしい。やるべきことはたくさんあるけど、ひとつひとつやっていけばいいと思う」と話す瀬野尾さん。

まずはご自身とご家族の命を守るために家具転倒防止対策から始めてみませんか。



無理な横断は  
しないでね!  
寺西 靖子さん

東白壁学区の寺西靖子さん(82)は、平成6年から赤塚の交差点で交通安全活動を続けています。「27年間やってきて、すっぱかしたの3回だけ。前の日から旗を出して準備していたのに、それでも忘れちゃうんだから」と笑って話してくれました。活動中は歩行者信号が点滅してもゆっくり歩いている高校生に容赦なく「走れ〜!」と声をかけちゃいます。「危ないときは躊躇なく声をかけることが大事!」と心強い言葉。冬の朝はさすがに堪えますが、「おはようございます」と元気よく挨拶してくれる子どもや先生方、活動後の喫茶店での仲間との語らい(もちろんモーニングも!)を大切に続けています。元気の秘訣は、20年以上続けている体操と、楽しくお酒を飲んで食べることに。「大切な命を事故で失わないためにも、無理な横断はしないでね!」と呼びかける82歳の交通安全街頭指導マスターは、今日も元気に交差点に立ち続けます。

東区交通安全街頭指導マスター

東区では、主に交通事故死0の日に区内交差点などで交通安全指導や見守りを行う交通安全街頭指導委員を、東区長と東警察署長の連名で委嘱しています。そして、委員を20年以上続けられた方を「交通安全街頭指導マスター」に認定し、マスターの証「マスター帽」をお渡ししています。街中でこのマスター帽をかぶっている人こそ、東区の交通安全レジェンドなのです。



資源ごみの分別は  
しっかりとね!  
石塚 和子さん



筒井学区の石塚和子さん(77)は、退職以来7年間、地域の保健環境委員として活動してきました。会社勤めの頃は仕事一筋。退職後、同じマンションの理事長さんから誘いがあり、「これからは地域貢献もいかな」と始めたのがきっかけです。毎週火曜日は資源ごみの日。早朝から道路脇の回収場所に出て、手際よく分別していきます。「おはようございます!」「いつもありがとうございます!」近所の方との挨拶や何気ないおしゃべりが宝になっています。地域の盆踊りや体育祭などにも参加するようになり、会社勤めの頃には気付かなかった地域活動の楽しさを発見したそうです。「お勤めや子育てをされている方は難しいかもしれないけど、ひと段落したら、お試いで1〜2年、地域活動を始めてみたらいいのでは!」楽しみながらや